



富士市社会福祉協議会では、公共交通機関を利用することが困難な高齢者や障害者を、リフト付き車両を利用して、市内での通院・リハビリ・公的機関への諸手続きをするための移動手段として無料送迎を行っています。

送迎に当たっては、運転ボランティア講習会を受講し、安全知識・安全運転技能を身に着けたベテランドライバー（42名登録）が、2名ペア（運転手・補助者）で送迎を行っております。

本日（7/6）は、新たに加入された運転ボランティア・社協職員・就労支援センター松ぼっくりのみなさん20名が、静岡県中央自動車学校において①利用者様に不安感を与えない運転方法、②狭路を使った車両感覚、③タコ壺コースでの車両変換を教習所教官の指導のもと、運転技能に磨きをかけるために実際に送迎で使用する車を使い実技運転の講習を受講しました。



〈送迎依頼の流れ〉

手順1. 依頼者は社協ボランティアセンターに電話で送迎を依頼する。

（介護保険要介護4 または 5の方は除く）

手順2. 依頼に基づき社協ボランティアセンターは、登録されている運転ボランティアの都合可否を

調整する。

手順3. 送り時の出勤ボランティア（運転者1名、補助者1名）が決まる。

手順4. 迎え時の出勤ボランティア（運転手1名、補助者1名）が決まる。

手順5. 運転ボランティアは、社協送迎用車両を用いて依頼業務にあたる。

手順6. 運転ボランティアは、送迎後、実施報告書を社協に提出する。



富士市では、平成7年に車いすのまま乗り込める車を利用して、移送サービス事業を立ち上げ利用者様に喜んでいただいています。
発足当時から27年間移送運転ボランティアを続けてきた小山章夫さん78歳(写真上)は、3年前から年齢制限(75歳)のため助手席で補助者として移送事業に携わり活躍されています。
小山章夫さんは、他人の喜びを自分の喜びとし、手の空いているときは病院に出かけて車いすの修理作業を行ったり、今日も実走行運転はできないが、新入会員の運転ぶりを温かく見守って補助業務に徹していました。

実技運転講習 課題A



利用者に不安を与えない運転方法の訓練として、①衝撃の無い段差乗り越え、②坂道発進、③直進・S字カーブ・交差点・踏切での安全走行等を行い教官の指導と同時に、後部座席に同僚のボランティア会員2名を同乗させ、自分の運転を客観的に評価していただくことによって自分では気が付かなかった弱点を洗い出してもらっています。

実技運転講習 課題B



狭い道でも脱輪せずにクランク路を前進・後退する訓練と、補助者の誘導合図を再確認する訓練は、実際に送迎する社協移送車両を使用して行う訓練のため、本番そのもので緊張感が漂っています。

実技運転講習 課題C



タコ壺状に置かれたパイロンの中を前進で侵入した車両(左写真)が、何回も切り返しを行い前進でタコ壺の入り口を出ていく(写真右)訓練です。

これは依頼者宅の狭い場所で、無難に方向転換する技能の修得を狙いとした訓練です。

どの訓練(課題A・B・C)も、依頼者様に安心して移送サービスを受けて頂くために大切な内容ですが、受講されたボランティアのみなさん誰もが素晴らしい運転技能の持ち主です。”念には念を入れ訓練に励んでいました。”



受講者の皆さんに感想を伺ったところ

- ① 経験を積んできた運転であるが自分の運転を見直す良い機会となった。
- ② 定年後、自分にできる事で人の役に立ちたいと思っている。
受講して運転ボランティアとしてやっていく自信がついた。
- ③ 安心してもらえる運転であるかをチェックするのに役に立つ講習であった。

いまニュースでは、「高齢者交通事故」の話を毎日のように耳にしますが、今日受講された皆さんの取り組みを見せていただき、ほどよい緊張感と、他人のために安全・安心を提供しようと、自分の弱点を見つけ、それを修正しながら技量アップを図り、安心して乗っていただける運転に最も心血を注いでいる方たちばかりです。

定年を迎えて余裕ある時間を、他人の喜ぶことに使おうとして自分を磨き上げる皆さんは実に若々しく頼もしく見えました。

「他人の喜びは、自分の喜び」としている皆さんに心から敬意を表したいと思います。

取材： 富士・富士宮・北駿地区 生きがい特派員 渡邊英機